

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 法文学部、人文社会科学研究科	3
2. 教育学部、教育学研究科	5
3. 人間科学部	7
4. 医学部、医学系研究科	9
5. 総合理工学部、生物資源科学部、自然科学研究科、総合理工学研究科、 隠岐臨海実験所	11

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
法文学部、人文社会科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人間科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部、医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
総合理工学部、生物資源科学部、自然科学研究科、総合理工学研究科、隠岐臨海実験所	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 法文学部、人文社会科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 山陰研究センターでは、3年間を期間とした共同研究「山陰研究プロジェクト」（毎年7～10件）を学部経費によって実施するとともに、外部資金による地域研究に対しても活動への協力支援を行うことにより、地域研究を継続、発展させている。
また法文学部の教員が中心となった古代出雲プロジェクター・センターの活動など、全学のプロジェクトとの連携も図っている。
- 島根大学と寧夏大学（中国）の学術交流にとどまらず、この共同研究所をハブとした中国西北部地域の諸大学との国際共同研究も進展させた。中国西北部および日本の中山間地域における循環型社会および持続可能な社会の形成に向けた共同研究プロジェクトとして、日中両国での現地調査に基づく実証的研究を行ってきている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 6)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地方自治体との連携による共同研究の推進について、人口減少社会における地域再生の方策に関する研究として、島根県邑智郡邑南町との共同研究「矢上高校の持続可能性に関する研究」をはじめ、島根県飯石郡飯南町・島根県仁多郡奥出雲町など多数の自治体との共同研究を推進した。これらの共同研究は、地域課題の解決に資するのみならず、内閣府が推進する「地方創生」、文部科学省が推進する「地域との協働による高等学校教育改革」等、政府が推進する主要政策を現場で検証するなど、質的向上が図られた。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

3. 人間科学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 8)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 津和野町において高齢者の客観的体力評価による健康意識向上の取り組みを行っている。また、松江市が産官学協働で進めているメンタルヘルスプログラムプロジェクトに研究協力を行っている。
- 実践を通して島大式働き方タイプ尺度（島大式働き方タイプ尺度：Shimane University Scale for Working Attitude Type；SCWAT（スクワット））やeラーニングコンテンツを開発し、企業に提供し、山陰地方をパイロットケースとして少子高齢化社会の心の問題を抽出し、抽出された知見・ノウハウを社会に還元している。
- カジュアルな形で学部の教員が互いの研究を交流する「ふむふむカフェ」を開催している。若手・中堅・ベテランの教員に偏ることなく話題提供者を選定し、事務職員も参加して、これまでに7回開催し、毎回、人間科学部の3コース（心理学、福祉社会、身体活動・健康科学）すべておよび事務職員が、平均して13名参加している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

優れた研究業績を増やしていく必要があるものの、学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

4. 医学部、医学系研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 10)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 10)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 島根県に多い難治性膵がんの撲滅を目標に島根発の抗体医薬開発を目指す「膵がん撲滅プロジェクトセンター」と高齢者の免疫力と全身管理を目指す「健康長寿のための感染症包括ケアプロジェクトセンター」を設置し、部局を超えた特徴的な教育研究プロジェクトの活性化と推進を行っている。
- 令和元年度、これまで各講座で保有していた質量解析機器を集中化し、専門のスタッフ3名を配置し、臨床系講座が保有する様々な病態の患者試料の代謝産物を網羅的に解析するメタボローム解析プロジェクト「Metabolizumo project」を立ち上げた。
- 「しまね大学発・産学連携ファンド」から投資を受け、2つの研究開発型のバイオベンチャー企業を設立した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、6件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

**5. 総合理工学部、生物資源科学部、自然科学研究科、
総合理工学研究科、隠岐臨海実験所**

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 12)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 12)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- ナノメディシンシンポジウム、日本農芸学会、ユージェナ研究会、医用分光学会等々の年会やシンポジウム、CLIRSPEC、BMI meeting、などの国際学会を主催している。自然科学研究科の教員が実行委員長を務めた学会は、総数、国際会議ともに、第2期中期目標期間の平均を超え、年々増加しており、学術コミュニティへの貢献は増している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、4件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。